

C 12 米食の実態と嗜好に関する調査

賢明短大 ○坂本 薫

奈良女大家政 丸山 悦子

<目的> 現在、新しい銘柄米が相次いで誕生し、消費者の人気を呼んでいる。米の輸入自由化も問題になっており、米を取り巻く環境は大きく変化しつつあるといえる。また、米飯の冷凍食品やインスタント食品なども日常的に使用されるようになってきた。本調査では、米食の実態と嗜好について明らかにしその要因や変化を考察するために、高校生とその炊事担当者および女子大生を対象に、米食に関して食生活、嗜好、意識などについて調べ、検討を行った。

<方法> 1991年5月下旬から6月中旬に、大学生250名、高校生500名、炊事担当者500名を対象に、調査用紙配布による質問紙法で調査を行った。

<結果> 大学生は欠食が多く、夕食においても主食を1週間に1回以上欠食した者が35.5%と他の対象者に比べてかなり多かった。また、市販の米飯調理品の利用は大学生に多く、高校生・炊事担当者では少なかったが、高校生の利用意欲は高かった。好きな飯料理は、どの対象者も「寿司」であったのに対し、よく食べるものには69.0%の者が「カレーライス」を挙げており、年齢による差はみられなかった。しかし、白飯の嗜好では、炊事担当者が弾力と粘りのある飯を好んだ。米購入の基準については、炊事担当者は「味」で、大学生は「銘柄」で選ぶ傾向があった。